



議会だより

ていすかす

111号

発行：登別市議会／編集：広聴・公開委員会／発行日：2022.5.1

登別市議会

で

検索

または



市議会ウェブサイトやフェイスブックページで、議会の活動や各種情報をご覧ください



今年1月に第一子となる長男を出産し、3月23日から復帰させていただきました。

子育てと仕事、2つの時間を大切にしながら、子育て楽しんでいきたいと思ひます。(宮武 みやたけ)

議会だよりかわら版を発行しました



ピンクシャツ大作戦、第1回臨時会についてはかわら版にて掲載しております。スマートフォン等をお持ちの方は、左の二次元バーコードからご覧ください。

CONTENTS

- 委員会だより ②ページ
- 一般質問 ③～⑥ページ
- 令和3年度補正予算審査 ... ⑥ページ

※令和4年度予算については、来月号(112号)に掲載される予定です。

委員会だより

『年間活動計画』の
各テーマ目標達成へ

総務・教育委員会

令和3年度の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各種意見交換会や行政視察をはじめとする活動が制限され、目標の進展へは大きな影響を余儀なくされました。

これらの状況を踏まえ、令和4年度は、アンケート調査や照会による問い合わせなども考慮した活動を展開して、各テーマの目標達成を目指します。

・重点活動テーマ『仮持続可能な開発目標（SDGs）を登別市のまちづくり』に生かす条例』の制定
・未来を見据えたまちづくり
①スマートシティへの取り組み状況

・公共施設整備のあり方
①学校施設、②本庁舎建設
・教育行政での懸案事項
①情報化の推進、②パソコン授業と健康影響

以上を引き続き推進します。

(天神林)

健康な街づくりの
推進に向けた調査

生活・福祉委員会

本委員会の令和3年度と令和4年度の2年間の重点活動テーマは「健康なまちづくりの推進に向けて」であります。

それに基づき、東川町と留萌市へ令和3年11月に行政視察を実施しました。

東川町では企業人材派遣制度により、町民の健康づくりの取り組みを、留萌市は留萌コホートピア構想（健康の駅の取り組み）について視察しました。

また、令和3年4月27日に発生したフレインフルセンターでの爆発事故を受けて、事故の原因と再発防止策の説明を受けた後、現場を視察しました。

令和4年度は重点活動テーマの最終年度となるため、議会サポーターの方々との意見交換会を予定し、活動を深めていきます。

(佐々木)

令和3年度の
活動を振り返って

観光・経済委員会

本委員会では、令和3年度の重要活動テーマを「観光産業並びに地域経済の活性化について」として活動することとしました。主な活動として、昨年9月には、

アイヌ関連情報の発信や地域コミュニティの場として洞爺湖町に開設されたアイヌ民族共生拠点施設「ウトウラ」を、また11月に富良野市と白老町を視察しました。富良野市では、SNSを活用する個人旅行観光客を対象に地域の魅力や情報発信のほか、電子決済などの各種サービスの取り組み状況を、また、白老町では民族共生象徴空間「ウポポイ」の開設に伴う経済効果や波及効果、雇用状況などについて話を伺いました。

本年も、各種意見交換会や行政視察などを行い、政策提言に向けて活動していきます。

(小栗)

コロナ禍でも知恵を
出し合える1年に

広聴・公開委員会

令和3年度を振り返ると、大きな動きや成果として、コロナ禍における議会フォーラムが、無事に終了できたことに安堵しています。

若い世代の高校生や専門学校生にご参加いただけたこと、感染予防対策や開催手法などを慎重に協議しながら開催当日を迎えました。

令和4年度は、さらなる議会フォーラムの開催へ向けて、検討していきます。

翌年の令和5年は、市議会は改選期を迎えます。本委員会での4年間の経験、成果を改選後の新たな委員会へ引き継いでいくため、形に残していくことが使命となります。

(伊藤)

議長からの諮問事項
に対する進捗状況

議会運営委員会

議会運営委員会は2年間にわたり、議長からの諮問事項、大きくは以下4項目について3グループに分かれ調査を行っています。

- ①各種条例、会議規則等の総点検と改善について
- ②政務活動費の使途の透明性の確保について
- ③ICT活用の一層の推進について
- ④議会における多様性の確保について

に対する現在の進捗状況は、①は議会の最高規範である「議会基本条例」の条項追加と条文の改正を行い、最終案の取りまとめに入っており、②は意見公募が終わり本年度から施行、③は委員会条例の条文改正を行い運用に至っております。

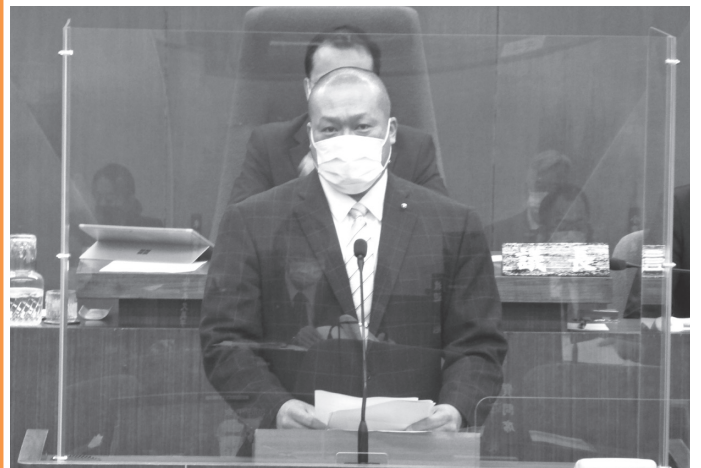
④についてはワーク終了のグループより、新年度から順次作業を行う予定です。

(若木)

令和4年第1回定例会 一般質問

[令和4年3月7日(月)～3月10日(木)]

議員11名が市政を問う



足立議員の
一般質問
中継はこちら

津波発生時における
避難経路の安全確保を
足立知也

津波発生時、栄町1丁目・2丁目住
民などの、高台避難場所への唯一の避
難経路が、若草跨線人道橋となること
を踏まえて、質問しました。

質 人道橋の除雪は行っているのか。
答 橋面の除雪は鉄道の保安上実施し

ていないが、階段部分はロードヒー
ティングを敷設し、融雪している。
質 人道橋の車いすやベビーカーの通
行については。

答 階段や自転車用スロープしかない
ため、避難の際には持ち上げて移動す
ることとなり、複数人で避難するなど、
地域の共助が重要であると考えている。
質 津波避難計画（地域計画）では、
橋が倒壊または倒壊する恐れがあると

きは使用しないとあるが、倒壊した場
合の避難についての対策は。

答 大津波警報発表時の線路横断方法
について、JR北海道などとの協議を
継続していく。

誰一人取り残さない
災害対応力の強化を
今野幹大



今野議員の
一般質問
中継はこちら

質 室蘭市医師会のスワネット北海
道に対する、災害時の有効性は。
答 災害時に医療機関のカルテを焼失
した場合や、住民がお薬手帳を紛失し
た場合などにおいて、市民の医療情報
を共有することにより、地域住民の安

まちづくり人材の発掘や
外部人材の活用は
成田昭浩



成田議員の
一般質問
中継はこちら

質 地域おこし協力隊員を積極的に活
用しようとしているが、職種や募集で
こだわったポイントは。

答 地域おこし協力隊が、地域住民や
地元企業と連携しながら活躍できる職
種を中心に選定している。

心感につながるものと認識している。
質 今後の市民の登録数増加に向けた
取り組みは。
答 他の市町と連携しながら、市広報
紙等を活用し市民の周知に努めてまい
りたい。
質 ペットを飼育されている多くの市
民は災害時の避難に不安を感じている。
従来の避難訓練以外にペットと同行避
難訓練を実施し検証しては。
答 現在、避難所におけるペットの飼
育ルールや同行避難のルールなどを検
討しており、飼育ルールなどが作成
できた後、ペットの同行避難訓練につ
いて実施し、検証していきたい。

地域おこし協力隊の任用型は、ふる
さとPRコーディネーター1名、委託
型は、移住・ワーケーション担当を1
名、サテライトオフィス利用促進1名、
観光マネージャー2名、合計5名の採
用を予定している。

まちづくりの新たな担い手、地域住
民や地元企業に活力や刺激を与え、ま
ちの活性化への貢献が期待される。

また、「よそ者目線」で地場産品の
PRや事業継続の担い手となり、活動
終了後も定住につながる事例もある。

協力隊員が自由に伸びやかな発想で
地域活性化に取り組むことができるよ
うにサポートしたい。

子育て施策に掲げる
病児保育の実現の考えは



米田 登美子
議員の一般質問
中継はこちら



質 本市において子育て支援施策を多く掲げるなか、その一つに病児保育の実施を挙げている。

しかし、長年計画に掲げながらも、未だ実施に至らない現状であり、今般新設の認定こども園において病児・病

後児保育について可能性を検討するとの考えが示されたが、双方を検討すると理解して良いのか伺う。

答 現時点では病児対応型・病後児対応型・体調不良児対応型の3種類の検討が必要と考えている。「医療機関との連携体制ができるか。」あるいは、「受け入れ児童の病態変化に的確に対応できるか。」など、市内小児科医の助言を受けながら、本市が対応可能なものを選択することになると考えている。

最後に病後児対応が近隣市を見ても現実的と考ええると提案し、長期の課題なので実現を求めて質問を終えました。

包括的な支援体制の構築は



井野 正臣
議員の一般質問
中継はこちら



質 地域共生社会の実現として、高齢者、障がい者、生活困窮者が自立した生活を送れるよう包括的支援体制に取り組むと市政執行方針にて示されたが、令和4年度の取り組みは。

答 国においては地域住民が抱える課題が複雑化しており、高齢者、障がい、生活困窮といった別分野ごとの支援体制では困難と現状認識している。そのため、制度・分野ごとの縦割りや、支えて・受けてという関係を越えて多様な主体が参画した地域共生社会の実現を目指し、令和2年度より社会福祉法などの一部を改正し、市町村における包括的な支援整備を行う新たな事業とその財源支援等が創設された。本市においては、他機関が協働し、多様な相談者からの相談を受け止める相談支援等を柱とする重層的支援制度の実施に向けて、関係機関の理解促進や現状把握に取り組んでいく。

「登別観光のビジョン」
市の基本スタンスは



天神林 美彦
議員の一般質問
中継はこちら



質 令和4年度の市政執行方針では、「新しい時代に向けて、活気に満ちた魅力あるまちづくり」において「登別観光のビジョン」を、登別国際観光コンベンション協会等と連携し、方向性を協議するところがあるが、行政の役割や基

礎となるべき施策は、

本的な考えについて確認したい。

答 観光を取り巻く環境は、国際観光需要の増大により、絶えず変化しており、ニーズ等に併せて随時取り組みを図っている。

特に近年では、「脱炭素社会やSDGs」を取り入れた教育旅行プログラムが注目されるなど、観光地においても、「カーボンニュートラルや持続可能な観光の推進」が必要な時期に来ている。

これらの取り組みでは、関係者が同じ「ビジョン」に向かっていく必要があることから、その方向性の協議に際しては、市も積極的に参加していく。

本市の地域公共交通の
現状と課題は



佐々木 久美子
議員の一般質問
中継はこちら



質 本市の公共交通を取り巻く課題は

答 公共交通の運賃助成を実施した場合の利用状況を確認した設問では、高齢者はすぐに利用したいと考えている。

質 高齢者に対する割引制度の今後の考えは。

答 持続可能な制度にするべく先進事例や他自治体の事例を研究しているが、利用者の状況とそれに伴う費用負担のバランスが取れていない事例が多く、本市の財政状況に見合った費用負担で実施できる方法を見いだせないのが現状である。令和4年度はバスの乗り方教室など、公共交通を利用したことがない方に、利用してもらう取り組みを先行して実施していく。

質 住民アンケート結果は。

地域おこし協力隊活用と
経済活性化の具体策は

田中寛志



田中議員の
一般質問
中継はこちら

質 神恵内村のウニやナマコの養殖事業の取り組み、猿払村の省エネによる葉物野菜栽培、そして、豊富町が温泉利用型健康増進施設の運営を行い、一定の成果を出している。

本市においても地域経済活性化のた

めに地域特性を生かした新たな産業や事業の取り組みが必要と考えるが、職員数も限られた中で、地域おこし協力隊の活用を視野に入れた具体的な事業を行うことについて伺う。

答 新たな事業を実施する場合の地域おこし協力隊の活用については、まずは事業内容を精査するとともに地域おこし協力隊の目的（地域住民や地元企業と連携しながらまちづくりの新たな担い手となり、地域住民や地元企業に活力や刺激を与えることで、まちを活性化していく）に合致する事業であるかなど、担当部署と協議を行いながら活用を検討していく。

水道事業の広域化、
官民連携の取り組みは

小栗義朗



小栗議員の
一般質問
中継はこちら

質 水道事業は、人口減少に伴う水の需要の減少や水道施設の老朽化、深刻化する人材不足など多くの課題に直面している。国は、平成30年12月に水道法の一部を改正し、広域的な連携を図るよう努めることとしているが、本市

の考えは。

答 現在、室蘭市との間で一定程度の広域的な連携がなされているが、西胆振を単位とするような広い範囲の連携は、北海道水道広域化推進プランに沿って検討する必要がある。

質 改正水道法では、官民連携も柱の一つとしているが、今後の取り組みは、
答 浄水場の運転管理や検針業務、窓

口業務の包括的な委託などは可能と考

えており、本市に合った適切な官民連

携の形を検討していく。また、事業の

効率化・持続性などの視点からも検討

を加え、民間活用について継続して調

査・研究を進めていく。

新しい時代を見据えた
市政執行方針を問う

杉尾直樹



杉尾議員の
一般質問
中継はこちら

質 今後人口減少により空洞化が進む中の持続可能なまちづくりについて。
答 今後の人口減少を鑑み市街化区域を拡大することなくコンパクトなまちづくりを進めるが、警別・幌別・登別3地区それぞれの特性を活かしなが

居住誘導区域を整備・集約し、それを公共交通で結ぶことが重要と考える。

質 地域共生社会実現に向けた、第4期登別市地域福祉実践計画「ぎずな」との連携の考え方について。

答 登別市社会福祉協議会が策定する「ぎずな」とは、これまでも登別市地域福祉計画と計画期間を一致してきたが、国が示す重層的支援体制整備事業実施にも「ぎずな」との連携を強化した上で地域福祉の推進に取り組む。

質 今後の建設関連事業への支援は。
答 建設関係団体からの経営支援に対する緊急要望もあり、現時点において建設事業経営の影響緩和策を予定。

登別温泉極楽通りと
スキー場整備の考えは

若木康夫



若木議員の
一般質問
中継はこちら

質 登別温泉の「顔」である「極楽通り」は大勢の観光客が訪れるが、坂道のため、冬期は滑りやすく、観光客が転倒するケースが多く見られ、JREレベーター設置が終わった後の令和9年以降、極楽通りのロードヒーティン

グ化を含む再開発の考えは。

答 多大な費用を要する事業だが、事業者を交えて協議を進めていきたい。

質 スキー場事業は近年堅調に推移しているが、現在稼働中のリフト2基はいずれも老朽化が進んでおり、特に運営の要となる第一リフトは故障すると営業に多大な影響を与えることから、早急なる大規模改修を早急に行う必要がある、また今後も幅広い客層を取り込むには現在のリフト2基体制は必須と考えるが、市の考えは。

答 第一リフトの大規模修繕は令和6年度までに行い、リフト2基体制は今後の状況の推移で判断したい。

令和4年3月1日(火)

令和4年2月28日(月)

ふるさとまちづくり応援関連の見込みは

質 ふるさとまちづくり応援基金積立金補正後予算は。

答 令和3年度当初予算額は、3億6千900万円であり、今回、9千647万9千円の減額補正により、2億7千252万1千円となっている。

質 積立金が大幅に減額となった要因は。

答 当初予算は10億円としていたものの、決算見込みで7億7千万円に減額したことや、想定よりも「寄付金に係る事業を指定しない」寄付金額が増え、「市民活動の促進に関する事業」等への寄付が少なかった。

質 太平洋沿岸の赤潮被害によるウニの価格影響は。

答 仕入れ先のウニの供給量は問題ないとのことであったが、ウニ全体の仕入れ価格が高騰していることや、ウニの輸送に係る燃料費が高騰していることなどから、現在は寄付金額や容量を変更している。
(千田)

安全に配慮した除排雪作業は

質 今年は2月に集中して積雪量が多く、除雪が追い付かない状況に陥り学校が休校になったり、自動車が走行困難になるなど、市民生活に多大な影響がありました。昨年と比較して除雪費はどうか。

また、迅速に除雪するのは当然のことながら、排雪がスムーズではなく道路に大量の雪が積み上げられ交通事故の危険を感じるが、除雪と排雪はどのように行われているのか。また、排雪した後の雪捨て場は十分確保できているのか。

答 除雪費は昨年比で現時点で2倍の経費となっていて、今後についても状況に応じて補正を行う。

排雪については担当部が区域で分かれて市内を確認し、作業を指示しているが、積雪量が多く雪捨て場も飽和状態なので、次期は5か所増やす予定である。
(米田)

オンラインを活用した委員会開催、導入へ

議長からの諮問事項である「ICT活用の一層の促進について」協議を進めました。ICT活用の中でも「情報通信機器（タブレットやスマートフォン等）を活用したオンラインでの会議への出席について」重点的に協議を進めました。これは、重大な感染症の蔓延や大規模な災害等、または、育児や介護など、やむを得ない事由により会議の招集場所への参集が困難な場合に、オンラインを活用した会議への出席を可能にするための環境を整備したものです。

現在、委員会条例の一部改正や情報通信機器等に関する運用基準の見直し、登別市議会オンラインを活用した委員会等運用基準の策定、ならびに各委員会において試験運用を進めたところであり、本年度から運用できる状態となりました。
(成田)

令和4年第1回定例会における議案の賛否状況

第1回定例会で上程された議案はすべて可決・採択され、否決された議案はありませんでした。

意見書2件・決議1件が可決されました。

意見書とは、市政の発展に必要な事柄の実現を要請するために関係機関に提出するものであり、決議とは、意見書と同様に市議会の意思を決定し、対外的に表明するものであります。

第4回定例会では、次の意見書及び決議を可決し、意見書2件を国会・政府へ提出しました。

詳しい内容は、市議会ウェブサイトをご覧くださいませ。

- ケア労働者の大幅賃上げと職員配置基準の見直しを求める意見書
- シルバー人材センターに対する支援を求める意見書
- ウクライナ情勢の早期平和的解決を求める決議

議会中継をスマートフォンなどで閲覧しませんか？



令和4年第2回定例会は6月10日(金)から開催される予定です。

本会議や各委員会は、スマートフォンやパソコンなどからでもご覧いただけます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ご来場による傍聴はできる限りお控えいただき、スマートフォンやパソコンから議会中継をご覧いただきますよう、ご協力をお願いします。